

## 文化・芸術



### 「雪の中しぐみ」

制作年不詳 紙本彩色  
53・1寸×80・3寸

西内利夫 (1932〜81年)

雪の中にたたずむつて表現し、筆の毛をグミ、日本では冬季に使うそのふわふわの越冬のため飛来する冬鳥を繊細に描いています。寒い雪の中のある鳥です。

地面を跳ねたり、止まったりするその動きが感じられます。たたかな命のぬくもり

は「だるまさんが転んだ」にもたとえられます。何か物音がしたの事。日展に入選するなでしようか、雪の中でど活動が続けています。いっせいに同じ方向にたが、48歳で急逝しました。注意を向けている本作す。本作は、来年1月でも、そろって動きを14日から常設展示室で止めていたり、片足を展示します。

あげたものがいたりとか、今年「名画の扉」は、これが最後となりま、誠に愛らしい姿が捉えられています。す。今年もご愛読いただきありがとうございます。

あえて正面から捉えて丸みを帯びた形として

(大倉)

### 《名画の扉》

大川美術館コレクションから